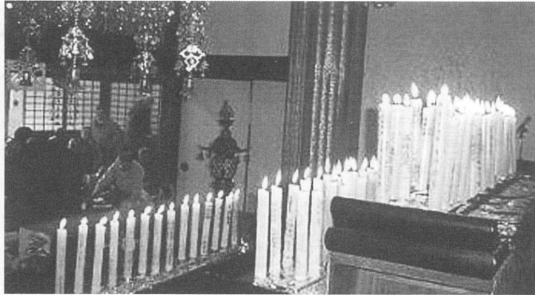


### 二月三日節分会

去る二月三日土曜日、節分会（せつぶんえ）を催しました。  
 当日はまず、正午より食事会としてお弁当が用意され、お互いの親睦を深めながら昼食を取りました。  
 祈願法要ではお経が唱えられる中、新年の願い事や目標を書き込んだろうそくに一本ずつ火をつけて立てていき、閉めに般若心経などをみながらお唱えしました。  
 続いて年男・年女による豆まき。



豆の他、お菓子やお餅がたぐさん投げられました。最後には恒例の福引きが行われ、三時に会を終了しました。これまで

での節分会は地元庄田の方々による行事という感じでしたが、昨年は初めて庄田以外の方にも参加を呼びかけた結果、八十五名の方にご参加いただき、例年より賑やかな会となりました。  
**今年も同じ内容で二月三日（日）の正午より開催します。なお、今年（防火安全のため）参加者が七十名を超えた時点で午前との二部制とします。参加される方は一月二十五日まで一人二千元（昼食費等込み）にてろうそくをお求め下さい。**  
 みなさんのご参加を心よりお待ちしております。

### 第一回薬師如来祈願法会を開催（五月八日）

去る五月八日火曜日、晴天の下、「第一回薬師如来祈願法会」が開催されました。

朝日寺では毎年五月八日にお釈迦様の誕生日を祝って「花まつり」を行ってきましたが、本尊薬師如来像の三十三年に一度の開帳が平成二十六年に迫っていることから、この開帳を盛り立てるため、開帳までの七年間、従来の花まつりの内容を拡大して行っていくと企画されたものです。



当日は朝から続々と参詣者が訪れては各自に花御堂でお釈迦様に甘茶をかける儀式「灌仏（かんぶつ）」に始まり、十時には住職と御詠歌隊を先頭におすなふみを行いました。その後は本堂で住職の法話を聞き、薬師如来本願功德経と般若心経をみながらお唱えし、御身守珠（※）やお守りなどのお接待が行われました。そして最後にはうどんが振る舞われ、しばし憩いのひとときを過ごしてお開きとなりました。

### 花祭り（薬師如来祈願法会）にご奉仕して

尾張 藤本幸子 (婦人役員)

私の母は、毎日花作りと、日経新聞の政治・経済、特に株式を楽しみにしていました。昨年（平成十八年）六月、四日間の入院でアツと言う間に他界、九十五歳で年に不足は無いですすがとても淋しく涙の出る毎日でした。母は生前近くにあるお大師

### 十月三十日日帰り寺めぐり

播州路を訪ねて

毎秋恒例の日帰り寺めぐりは、十月三十日に「播州路を訪ねて」と題して朝日寺名譽住職若松正隆師の実姉が嫁いだお寺、観音寺（兵庫県宍粟市）・安養寺（兵庫県）・瑠璃寺（作楽郡）へのお参りと滝観賞などを楽しみました。

### 朝日寺の繁栄を願って

大土井 田中義臣 (副総代長)

新年明けましておめでとうございませう。壇信徒の皆様方にはよいお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。先人達、役員の方々も壇信徒の皆様と心を一つにして伝統ある朝日寺にの信念でやってこられた事で今日があると私は思います。ただただ敬服する次第でございます。心より感謝申し上げます。さて、今回十月三十日に恒例のお寺めぐりを「播州路を訪ねて」との

お手伝いが多く順調に運び、皆さん美味しいと言って食べて下さいました。色々なボランティア活動をしていきますが、何と言っても行事に多くの人が集まって来て下さるのが一番嬉しい事です。又お子様、お孫様を連れてのご参拝はこの上ない喜びです。親から子、子から孫にと伝統ある仏教の開祖であるお釈迦様に甘茶をかけて花祭りの行事を知っておいで欲しいと思います。最後にになりましたが、私達が檀家である朝日寺の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

タイトルで行いました。朝日寺名譽住職若松正隆師の

三人のお姉様が嫁がれておられる三ヶ寺をお参りさせて頂きました。最初は高野山真言宗観音寺（四姉様の嫁ぎ先）でした。満九十一歳という大奥様は大変お元気でした。私の長兄と小学校時代の同級生でよく覚えて下さっており、とても懐かしう話して下さいました。納経が終わった後、法話を拝聴し、お茶の接待も受けた後、長寿をあやかり記念写真も撮らせて頂きました。お見送りを受けた後、安養寺（次姉様の嫁ぎ先）へと車を進めました。

安養寺へ到着すると石段で記念の集合写真を撮影して本堂に上がらせて頂き、住職の先達で般若心経を上



げました。その時こそ無我の境地と言葉の通り、皆さんも安堵のご様子でございました。住職の法話を拝聴し、お礼を申し上げ、住職が手を振って見送って下さる中、安養寺を後にしました。次は心待ちにしていた「楓香荘（ふかそう）」で腹一杯に昼食を頂戴した後は徒歩で本日の観光メインである「原不動の滝（日本の滝百選）」へ。曲折する山坂や横に揺れる吊り橋を進むと、思いの外水量の多い滝が目に見え込んできました。これぞ「原不動の滝」。山は紅葉が始まり、皆さん景色に見惚れていました。

再びバスは出発し、早場米が刈り取られ、トラクターで耕された田んぼの中や山道を抜けると前方にお寺の大門が見えました。そこから脇に無数の杉の原木が路肩に迫ってバスがやっと通れる程に狭い道を通り抜け、着いた所が瑠璃寺の駐車場でした。六十余名の参加者は客殿に通されると、今日最後のお寺にふさわしく大きな声で般若心経を唱え、南無大師遍照金剛で締めました。瑠璃寺四十三代目と言われる住職様の一言半句も聞き漏らすことの出来ないお話を拝聴致しました。

お話によれば高野山真言宗別格本山船越山瑠璃寺の本尊は千手千眼觀世音菩薩で開基は行基菩薩が神龜五年二月（七二八年）、今から1279年前に聖武天皇の勅願により、天平三年（七三一年）に本堂・金堂・奥の院が建立され、また所有する山林は約二千町部と言われ驚きました。現在では新西国第三十三番霊場、播磨西国十一番霊場でもあります。その瑠璃寺に長姉様が嫁がれ、一時期を支えてこられて大変だったなあと思います。しかしこれぞ朝日寺においてはもちろんのこと、檀家にとりまして今では誇りに思います。この偉大な歴史の瑠璃寺にあやかり私共の菩提寺朝日寺がますます繁栄することを祈り致します。今回のお寺巡りの思い出とさせて頂きまして、それでは壇信徒の皆様のご健勝とご多幸をご祈念致しまして失礼致します。 合掌

